
「投資信託の国際的な課題・動向に関するセミナー ―グローバル時代の投資信託―」の様相について

日証協・平成 28 年 10 月 21 日

今般、国際投資信託協会（IIFA）¹の年次総会が、2016年10月24日（月）から26日（水）に大阪で開催される機会をとらえ、投資信託協会、本協会及び日本経済新聞社の共催により、同総会参加のため来日する各国投信業界首脳らを講演者、パネリストとして招へいし、高齢化や中産所得層の拡大に伴い世界的に重要性が増している資産運用業及び投資信託の動向、今後の課題をテーマとしたセミナーを東京で開催した。

○ 開催概要

開催日：平成 28 年 10 月 21 日（金）

13 時 00 分～17 時 00 分

場 所：日経ホール（日経ビル 3 階）

主 催：投資信託協会、日本証券業協会、
日本経済新聞社

協 賛：不動産証券化協会、格付投資情報
センター、QUICK

後 援：金融庁、厚生労働省、日本取引所
グループ、日本投資顧問業協会、日本証券アナリスト協会

参加者：479 名（業界関係者：215 名、その他：264 名）



各セッションの概要は、以下のとおり。

1. 主催者挨拶

スピーカー：投資信託協会会長 白川 真 氏

<主なポイント>

セミナー開催の趣旨と意義を紹介するとともに、我が国資産運用業の重要課題として、顧客の多様なニーズ・利益を第一に考え、顧客の中長期的な資産形成に資する投資信託商品の組成と長期運用を挙げ、本セミナーにおける討論を通じ、今後の我が国投資信託業界の発展につながる機会となることへの期待を示した。



¹ 国際投資信託協会（International Investment Funds Association, IIFA）は、世界約 40 の投資信託協会が加盟する国際組織。毎年秋に加盟協会が持ち回りで年次総会を開催している。年次総会へは例年 35 協会、100 名程度が参加している。

スピーカー：日本証券業協会 会長 稲野 和利

<主なポイント>

中長期的な資産形成の重要性の高まりを訴えるとともに、本協会の投資信託に関連した活動として、NISA、iDeCo（個人型確定拠出年金）等への取り組み、金融リテラシーの普及・推進活動、東京国際金融センターの実現に向けた取り組み等を紹介し、本セミナーが我が国にとって示唆を得るための貴重な機会となる旨を述べた。



2. 基調講演 「投資信託—変化する経済環境における役割」

スピーカー：ポール・S・スティーブンス 氏（国際投資信託協会（IIFA）会長、米国投資信託協会（ICI）プレジデント兼CEO）

<主なポイント>



今後、高齢化社会の到来が各国共通の対処すべき課題となる中、退職後に向けた資産形成ツールとして、投資信託は最大かつ最も効率的な金融商品として重要になる。

そのためには、資本市場の機能を強化し銀行預金への依存から脱却を図るとともに、個人の便益に配慮した資産形成のための制度の確立が必要である。

米国では、確定拠出年金（DC）を通じて 7.3 兆ドル（約 760 兆円）の投資信託が保有されており、DC 制度の確立が「貯蓄から投資」の流れを加速した。

DC 制度のアドバンテージである ① ポータビリティ、② 積み立て投資、③ 多様な選択肢について、投資者である多くの人々に対してその効率性や有効性を粘り強く浸透させていく努力が求められる。

3. パネルディスカッション1

「変貌する投資信託とアセットマネジメントビジネスの展望」

モデレーター：小平 龍四郎 氏（日本経済新聞社編集局編集委員兼論説委員）

スピーカー：ベンジャミン・フリードマン 氏（ハーバード大学教授）

ポール・S・スティーブンス 氏（IIFA 会長、ICI プレジデント兼CEO）

ピーター・ド・プロフト 氏（欧州投信資産運用協会（EFAMA）事務局長）

渡邊 国夫 氏（野村アセットマネジメント CEO 兼執行役社長）

<主なポイント>

グローバル、欧州、日本における資産運用業界の代表者に加え、学界で金融論をリードするベンジャミン・フリードマン教授がパネリストとなり、各国経済・社会における投資信託の役割や資産運用業界の発展の背景にある要因、特に、個人投資家の信頼を得るために重要となる運用会社自身のガバナンスや受託者責任、販売手法等について討論が行われた。



パネリストからは、① 先進国の低成長・低金利下において個人が退職後に向けた資産を確保していくため、今後投資信託の果たすべき役割はより一層重要になっていくこと、② 運用会社による投資先企業との対話を契機に運用会社・企業・投資家の3者間でいかに好循環を引き起こし、個人に投資の成功体験を積み重ねることができるかが鍵となること、③ それぞれの法域の特性に応じてファンドマネジャー・販売会社にとってのインセンティブを適切に設定し、利益相反を回避することの必要性、④ 米国では受託者責任を果たす一環としてファンドマネジャーが議決権行使の基準・判断結果の開示を求められていること、⑤ DC には、加入者が投資先を選択しない場合に、長期的な視点で今後のインフレリスクに備えることを意識した商品が提供されることの重要性などが指摘された。

4. パネルディスカッション2

「世界経済の展望と長期資産形成に投資信託が果たす役割」

モデレーター：今川 京子 氏（日本経済新聞社編集局次長兼証券部長）

スピーカー：クロード・クレマー 氏（国際投資信託協会（IIFA）理事）

サリー・ロアンヌ 氏（豪州金融サービス協議会（FSC）CEO）

田代 桂子 氏（大和証券グループ本社 取締役 兼 専務執行役）

田中 裕之 氏（三菱UFJ国際投信 取締役副社長）

<主なポイント>



我が国でも進展が見られる個人型確定拠出年金制度の拡充、アジア域内でのファンドを通じた資金往来の加速、その他資本市場の機能強化の動きを踏まえ、各国における同様の制度の経験を交えつつ、海外と日本の資産形成の違い、投資教育や投資信託の周知活動への取組み、今後の世界経済や投資環境の変化について、幅広い観点から討論が行われた。

パネリストからは、① 来るべきインフレ社会

の到来に備えて投資家に適切な資産形成を促していくためには、販売会社としても顧客との信頼関係を構築していくことが重要であること、② オーストラリアの経験として、全ての被用者が強制的に加入しなければならないスーパーアニュエーションが導入されたことより、個人レベルでの資産形成へのモチベーションや金融知識の大幅な向上につながったこと、③ 小・中学校の段階から生活の一部（デフォルト）として資産形成を考えていくことの習慣付けも有用であること、④ NISA や DC 制度を最大限に活かすための長期のライフプランに適合した投資信託商品の開発・投入を進めることの重要性、⑤ 世界経済の不確実性が増す中で個人が効果的に中長期の資産形成を行っていくため、投資信託の果たすべき役割はより一層重要になっていることなどが指摘された。

以 上

「投資信託の国際的な課題・動向に関するセミナー ―グローバル時代の投資信託―」

プログラム

13:00-13:10 開会挨拶	白川 真 氏 (投資信託協会会長) 稲野 和利 (日本証券業協会会長)
13:10-13:30 基調講演	「投資信託―変化する経済環境における役割」 ポール・S・スティーブンス氏 (国際投資信託協会 (IIFA) 会長、米 国投資信託協会 (ICI) プレジデント兼 CEO)
13:30-15:00 パネリディスカッション ①	「変貌する投資信託とアセットマネジメントビジネスの展望」 【モデレーター】 小平 龍四郎 氏 (日本経済新聞社編集局編集委員 兼 論説委員) 【パネリスト】 ベンジャミン・フリードマン氏 (ハーバード大学教授) ポール・S・スティーブンス氏 (IIFA 会長、ICI プレジデント兼 CEO) ピーター・ド・プロフト氏 (欧州投信資産運用協会 (EFAMA) 事務 局長) 渡邊 国夫氏 (野村アセットマネジメント CEO 兼執行役社長)
15:00-15:30 休憩	
15:30-17:00 パネリディスカッション ②	「世界経済の展望と長期資産形成に投資信託が果たす役割」 【モデレーター】 今川 京子 氏 (日本経済新聞社編集局次長 兼 証券部長) 【パネリスト】 クロード・クレマー氏 (国際投資信託協会 (IIFA) 理事) サリー・ロアンヌ氏 (豪州金融サービス協議会 (FSC) CEO) 田代 桂子氏 (大和証券グループ本社 取締役 兼 専務執行役) 田中 裕之氏 (三菱 UFJ 国際投信 取締役副社長)